

## 船舶事故調査報告書

平成25年7月25日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	同乗者負傷
発生日時	平成24年7月23日（月） 14時20分ごろ
発生場所	岡山県笠岡市白石島北方沖 笠岡市所在の白石島港沖防波堤東灯台から真方位237° 700m 付近 （概位 北緯34° 24.5′ 東経133° 30.7′）
事故調査の経過	平成24年8月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	水上オートバイ みちお号、0.1トン 273-11606 広島、有限会社コンセプト 2.66m (Lr) × 1.07m × 0.40m、FRP ガソリン機関、88.3kW、平成15年6月
乗組員等に関する情報	船長 女性 43歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成2年7月13日 免許証交付日 平成22年7月6日 （平成27年7月12日まで有効） 同乗者A 男性 43歳
死傷者等	負傷 1人（同乗者A）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長及び同乗者Aほか1人が乗船し、白石島北方沖を遊走中、船長が操縦ハンドルを左に切って急旋回したところ、平成24年7月23日14時20分ごろ、白石島港沖防波堤東灯台から真方位237° 700m付近において、3人共に落水した。 船長及びもう一人の同乗者にけがはなかったが、同乗者Aは、仲間のプレジャーボートに救助され、呼吸をしていなかったため、心肺蘇生措置を受けながら、笠岡市神島外浦港まで搬送され、待機していた消防署員に引き渡された。 同乗者Aは、救急車で病院に搬送されたのち、意識が回復し、会話ができる状態になったが、肺水腫と診断された。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：波 なし、潮汐 高潮時</p>
<p>その他の事項</p>	<p>同乗者Aは、同人が経営する飲食店の関係者（大人21人及び子供5人）と水上オートバイ1隻及びプレジャーボート1隻を使用して白石島周辺でマリレジャーを楽しんでいた。</p> <p>本船は3人乗りの水上オートバイであり、前から船長、同乗者2人の順で乗り、船長は操縦ハンドルを握り、同乗者2人は前の人に抱きつくような姿勢で座っていた。なお、同乗者Aが一番後ろの席に座っていた。</p> <p>船長は救命胴衣を着用していたが、同乗者A及びもう一人の同乗者は救命胴衣を着用していなかった。</p>
<p><b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は白石島北方沖を遊走中、船長が操縦ハンドルを左に切って旋回したことから、同乗者Aが落水して負傷したものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が白石島北方沖を遊走中、船長が操縦ハンドルを左に切って旋回したため、同乗者Aが落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋回する際には同乗者にその旨を知らせること。</li> <li>・ 水上オートバイに乗船する場合には、救命胴衣を着用するとともに、適切な着用に留意すること。</li> </ul>